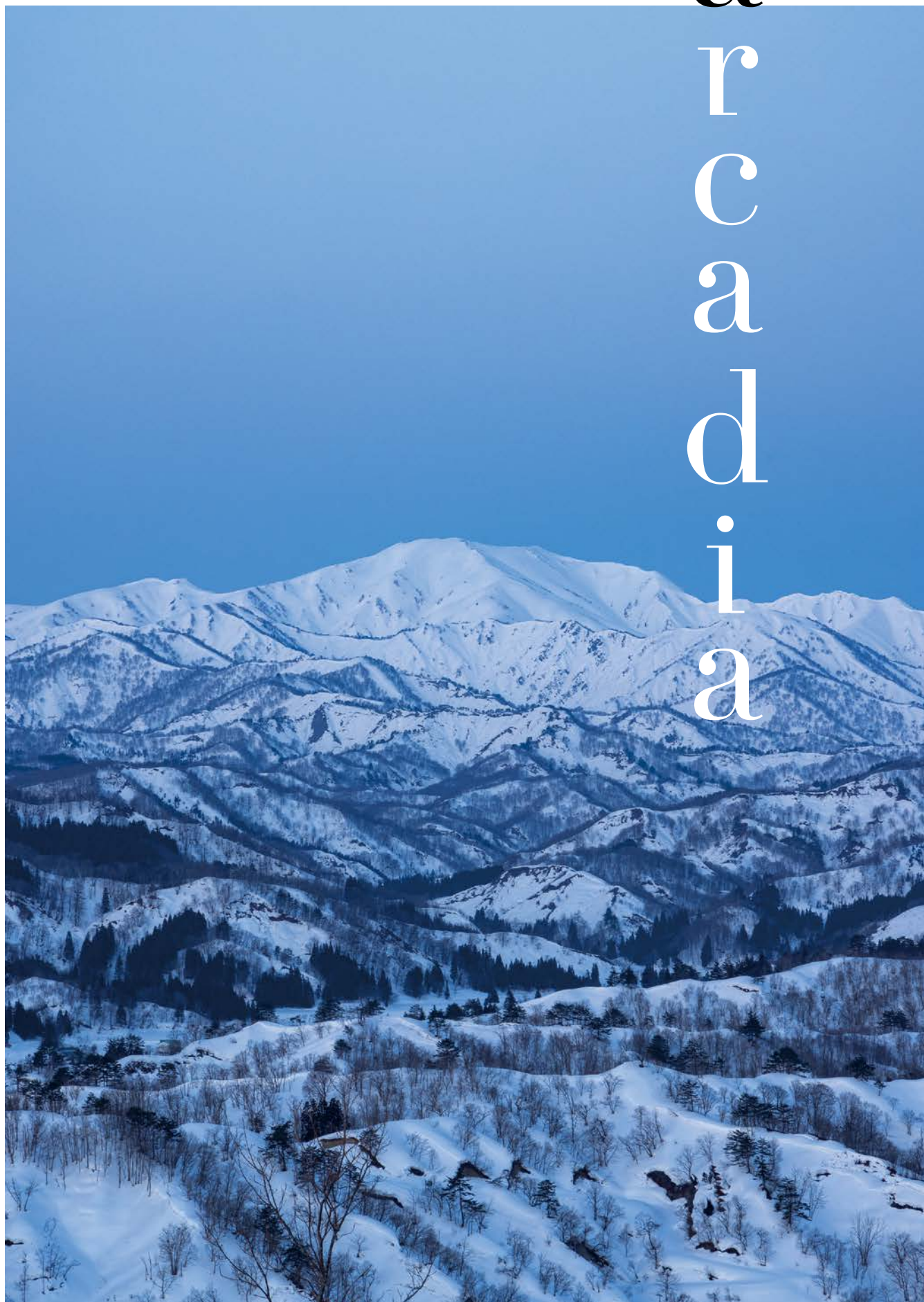


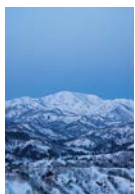
a r c a d i a



最上川舟運

最上川が紡ぐ文化とまじり

MOGAMIGAWA SYUUN



Cover STORY

雑木林の上に被った雪の上を、夜をかき分けながら進む。
ほどなく太陽が生を届け、辺りが色づき始めると共に、
ひゅーと冷たい風が吹いた。振り返った私は言葉を失った。

P02-P03：母なる川、最上川

CONTENTS

04

特集1 最上川舟運

悠久の最上川
舟運で栄えた山の港町

08

最上川流域で発展した文化

置賜の伝統文化に
出会える場所を紹介

12

特集2 OMIKIプロジェクト

白川荘 どぶろく杜氏 高橋亮
DJ KENTARO Kensuke Takahashi

16

地域を思う人たちに
大切な映像を届ける

映像ディレクター 宮部一通

18

2市3町フォトスポットマップ

ファインダー越しに見る
東洋のアルカディア

長井・白鷹を紹介する上では欠かせないキーワードとなっている、「舟運文化」。
2014年に行われた山形デザインেশョンキャンペーンに関連して、JRR東日本大人の休日倶楽部のCMが長井で撮影されました。
「三百年前に上方文化が辿り着いたのは、小さな『山の港町』でした。」
そんな印象的なセリフで長井が語られています。
現在の交通手段は車か電車が中心で、内陸部に住む私たちは普段海との関わりが少なく、すぐそばを流れる最上川が日本海へつながるということを頭では分かっているけど、普段から意識しているかというとそうではないかもしれません。
しかし、かつて長井には「川の港」があり、そこから資源が酒田を通り、遠く離れた上方（京、大阪）へつながっていたことを、今より身近に感じていたかもしれません。伝統文化や食文化など、この地域特有のものだと思っていたことが、実は遠く離れた地の影響を受け、様々な人との関わりを経て生まれていったものだと考えると、とてもワクワクします。
今は地方のものが簡単に手に入る時代になっています。
だからこそ、モノにのせて、背景にある受け継がれた想いと一緒に贈ることができるように、これからも地域の物語を紡いでいきたいと思っています。
今年もやまがたアルカディア観光局を、そして「季刊誌 arcadia」をどうぞよろしくお願いいたします。

季刊誌「arcadia」編集部

P02-P03：母なる川、最上川

歴史と文化 生命を育む 悠久の最上川



P04：置賜盆地の中央をうねるように走る「母なる最上川」

P05：上／最上川舟運がもたらした恩恵が今につながる 下／古地図に描かれる最上川と集落

最上川の誕生

最上川は福島県と境をなす吾妻山付近を水源に、置賜、山形、新庄の三盆地を北に流れ、庄内平野を横断して酒田から日本海に注いでいる。今から約6500万年前までの新生代と呼ばれる時代に、各盆地と庄内平野は湖沼か海だった時期があり、その後の地殻変動で湖沼の水が捌け口を求めて流れ始めた。隆起した山々から水が注ぎ込むにつれて、湖沼の間を流れていた小さな水路が拡大し、約100万年前の水河期に一本の川となったと考えられている。

流域面積7040平方キロメートルは山形県全体の76%にあたる。山形の背骨のような本川に流れこむ支川は大小合わせて428。その流域に約100万人が暮らし、経済や文化を発展させてきた。最上川という名前が文献に登場するのは平安時代、905（延喜5）年に出た『古今和歌集』が最初である。「最上川 のぼれば下る稲舟の いなにはあらず この月ばかり」（20巻、東歌）という歌から、稲を積んだ舟が往来していたことがわかる。また、927（延長5）年に公布された延喜式には最上地方の水駅が記載さ

れていて、最上川舟運は中世には部分的に確立していたとみられる。

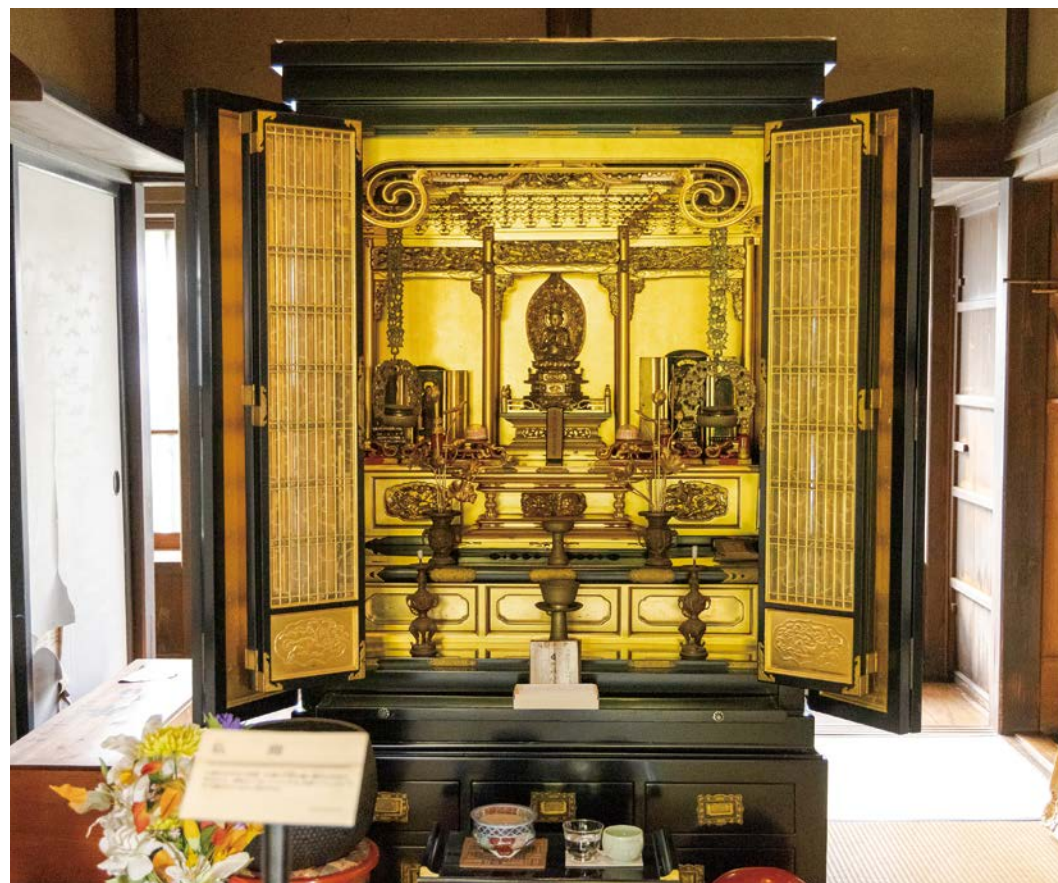
最上川舟運のはじまり

上流から下流まで、一貫して舟運が行われるようになったのは江戸時代である。幕府の海運航路の開発を受け、山形城主最上義光は「三難所」と言われる村山市の基点、三ヶ瀬、隼を開削させ、舟運発展のきっかけをつくった。幕府の御用商人、河村瑞賢が酒田を起点とした西廻り航路を確立したのは1672（寛文12）年。以降、酒田から大阪、江戸へとつながる海運は発展を続けていった。

一方、海から程遠い上流部にある米沢藩は、川底が浅いため舟を浮かべることができず海運航路を活用できずにいた。そこで着目したのが白川が合流し水量豊かな藩領長井である。しかし長井から北にある白鷹町荒砥地区周辺の五百川峡谷もまた難所であり、大きな岩が乱立し急流が諸所に発生していた。これを解決して江戸や京、大阪と交易し利益を生もうと、米沢藩の御用商人、西村久左衛門が普請を願い出て黒滝開削を開始。難工事の末、1694（元禄7）年に全流程が開いた。

最上川舟運

上流で栄えた山の港町



紅花・青芋が多く、長井からは絹糸・蠟・漆などが移出された。中でも紅花は江戸後期の諸国名産番付で阿波の藍玉と対して関脇に位置するほど高く評価され、米沢藩の青芋は上質で奈良晒や越後の縮織などに使われるなど人気が高かった。これらの特産品を置賜の地にもたらしたのは米沢藩主上杉景勝公の側近、直江兼続であり、およそ200年の後にそれを受け継ぎ、藩財政を立て直す施策として栽培を奨励したのが9代藩主上杉鷹山公であった。

明治期になると奥羽本線が開通し、交通基盤として舟運の機能は失われた。紅花や青芋も換金作物としてもはや

される時代は過ぎたが、伝統ある作物を今も大切に育て、未来につなぐ人がいる。舟運によりできたまちの形がある。最上川の歴史を辿れば、この地域に生きてきた人々が紡いできた営みと文化が見える。

P06 上段：仏壇をおさめた部屋。仏壇の天板の裏に嘉永の年号があるから、建物より古いことになる。京都でつくられ、舟で運ばれたものと思われる
下段右：白鷹町は全国随一の紅花産地
下段左：紅花染めの原料、紅餅

参考文献／
横山昭男ほか『最上川と舟運』
山形県立博物館『やまがたと最上川』
読売新聞山形支局『最上川 歴史と文化』

MAP & INFORMATION

旧長井小学校第一校舎

〒993-0001 山形県長井市ままの上5-3
TEL 0238-87-1802 開館時間/9:30-18:00
休館日/月曜（月曜が祝日の場合は翌日）
<https://kyunagaisho.jp>

文教の杜ながい

「丸大扇屋」「長沼孝三彫塑館」

〒993-0086 山形県長井市十日町1-11-7
TEL 0238-88-4151
開館時間/10:00-17:00（入館は16:30まで）
休館日/月曜・月末日（月曜が祝日の場合は翌日）
12/29-3/31
<https://www.bunkyounomori.com>



やまがたアルカディア観光局 _お知らせ

アルカディア手ぬぐい 好評販売中

ようこそ、新たな自分に出逢える郷山へ。

やまがたアルカディア観光局のブランドコンセプトである、「新たな自分に出逢える郷山」をコンセプトに、地域の情景をモダンテイストにデザインした手ぬぐいができました。

昔ながらの技法である注染（本染め）で一枚一枚丁寧に仕立てた手ぬぐいです。

また、アルカディアエリアの特典店舗に持参すると特典を受けられる仕掛けを施しています。

お弁当を包んだり、頭にかぶったり、身体を洗ったり、タペストリーとして飾ったり。

そして、旅の思い出に。

詳しくは、やまがたアルカディア観光局の特設ページをご覧ください。

https://tour.arcadia-kanko.jp/user_data/arcadia-tenugui



長井市



南陽市



白鷹町



飯豊町



小国町

伝えられたもの

最上川をのぼって運ばれてきたのは、塩・古手物・干魚・木綿、茶などである。近世初期にはキリスト教宣教師も最上川の川舟を使って山形や米沢に至って、荒砥付近で発見された十字架はこの伝播ルートに連なる遺物と考えられている。最上川舟運は、物資だけではなくさまざまな文化の流入をもたらした。酒田へ積み出されたのは米・大小豆・

遠く江戸・大阪まで通る路が一筋の川によって結ばれ、舟の往来が始まると、米沢藩は長井に陣屋（藩出張所）を設け舟着場と特産品を保管する倉庫をつくった。さらに上流の高畠町糠野にも舟着場を設置したが増水期以外は舟がのぼれなかったため、長井の「宮舟場」が最上川舟運の起点となった。すると問屋や商店が続々と集まり、産物を積んだ荷車が宮と米沢を行き来するにぎわいをみせた。次いで2キロほど上流に民間の「小出舟場」がつくられ、米沢藩の表玄関として長井は大いに栄えた。



最上川流域で発展した文化
最上川舟運がつないだ置賜の伝統

traditional culture

舟運文化が花開いた江戸時代から、現在まで続く伝統文化があります。
先人たちの知恵と技術を守りながら、愛情を持って作り、伝える人々。
ここでしか会えることができない、本物のものづくりをご紹介します。

臨時休業中や営業時間変更場合があります。お出かけの際は各店舗にお問い合わせください。

舟運文化を深く知る

旧長井小学校第一校舎

2009（平成21）年に国の登録有形文化財に登録された歴史的建造物。リノベーション後はカフェも併設。館内ではさまざまなイベントが開催され、子どもから大人まで市民の学びと交流の拠点となっています。資料展示室には、長井市の歴史や文化がわかる映像や詳しい年表、舟運文化についての資料があり、県外からの観光客も多く足を運んでいます。



〒993-0001 山形県長井市ままの上5-3
Tel/0238-87-1802 開館時間/9:30～21:30（展示室は18:00まで）
休館日/月曜（月曜が祝日の場合は翌日） <https://kyunagaisho.jp>

白鷹だけの「板締小綱」 小松織物工房

国の伝統的工芸品に指定されている「置賜紬」のひとつ「白鷹紬」。驚くほど緻密な小綱模様は、稀少な「板締染色」という技法で経糸と緯糸を先染めし、一本一本正確に合わせながら織り進めることで表現されます。染めから織りまで高度な技術を結集し手作業でつくられる「白たかお召」は、大粒の「鬼しば」が現れる独特の風合いと滑らかさがあります。



〒992-0821 山形県西置賜郡白鷹町十王2200
TEL/0238-85-2032 開館時間/10:00～16:00 休館日/不定休 年末年始
komatsu-orimono-kobo.com

世界で一番の最上紅花 紅花音羽屋

江戸時代から14代続く紅花生産者。紅花を愛し、これからも守り伝えるため、無農薬・化学肥料未使用の紅花を使った肌にやさしいスキンケア製品、紅花香黄染めのネックウェア、紅花茶を開発しています。「最上川を通じて広がったのが紅花。他の地域の方とも連携して紅花を盛り上げていきたいです」と、語る新野さん。紅花の未知の可能性を追求しています。



〒992-0832 山形県西置賜郡白鷹町荒砥乙892-1
Tel/0238-85-6241 営業時間/9:00～17:00 定休日/不定休
<https://www.benibana-otowaya.jp>

最上川舟運の豪商 丸大扇屋

最上川舟運とともに発展した呉服商。約330年続いた商家で、敷地内には天保3年の年号が書かれた祈禱札が残る味噌蔵をはじめ、母屋、内蔵など、山形県指定有形文化財となっている7棟があり、うち5棟は見学可能です。水路を母家に引き込む「入れかわど」や当時の調度品など、江戸時代末期から明治、大正にかけての商家の暮らしを垣間見ることができます。



〒993-0086 山形県長井市十日町1-11-7
Tel/0238-88-4151 開館時間/10:00～17:00（入場は16:30まで）
休館日/月曜・月末日（月曜が祝日の場合は翌日） 12/29～3/31
<https://www.bunkyounomori.com>

ぬくもり伝わる手漉き和紙 深山和紙振興研究センター

白鷹町深山地区で江戸時代初期から始まったと伝わる和紙。舟運の際、紅花や青芋を包み傷まないようにしていたといわれます。和紙作りは、秋も深まった頃に楮を刈り取ることから始まり、材料を仕立て、蒸し、ひき、練り、紙打ち、紙漉き、天日干し、という冬の間の長い工程が必要です。伝統の手法は、地域の人々と担い手の尽力によって守られています。



〒992-0776 山形県西置賜郡白鷹町深山2527
Tel/0238-85-3426 営業時間/9:30～17:00 休館日/不定休 年末年始
※体験は4月～12月まで、10日前まで要予約、5名様～



そこにあったのは、星と雲の海。時よ止まれと願い、星の流れを撮る。美しさとは儚さなのかもしれない。

OMIKI ART



白川荘

どぶろく杜氏

高橋 亮



DJ KENTARO

(2020年3月撮影)



ペインター・壁画家

Kensuke Takahashi

アルカディア地域が誇る地酒と、アートによる新しいコラボレーションをお届けする〈OMIKI プロジェクト〉。今回は飯豊町の「どぶろく」と世界にダンスミュージックを発信するDJ KENTARO、画家でイラストレーターのKensuke Takahashi が連携した。

旨み弾ける中津川のどぶろく

飯豊町中津川の特産品、どぶろく。冬が近づく季節になると、地元で獲れた米と飯豊山系の良質な水、麴、酵母を使って毎年仕込みが行われている。古来よりどぶろくは豊穣祈願のため神様に供えられる風習があり、かつては各家庭や農家でも製造されていたが、酒税法の制定以来、認可を受けた施設でしか造ることができない。飯豊町は、2004(平成16)年に「どぶろく特

る。それに、水と麴と酵母菌を合わせまんべんなく麴菌が行き渡るようにしておいたものと仕込み水を加え仕込みは完了。「目指す気温は7度から8度。雪が降る中でも窓を開けて扇風機を回わしてね。仕込みの温度はもう少し高くてもいいと言われたけど、こっちの方が出来がいい気がする」という高橋さん。

発酵が始まると、毎日2度ほどずつ上がっていく温度を測りながら攪拌を進めていく。12度から14度に保ち約1ヶ月。最初は重かった手応えが徐々に滑らかになり、アルコール度数が12度に近づいてきたら、発酵を抑えるように自然に温度を下げていき完成となる。冬の間に仕込むのは2600リットルほど。火入れ作業を行い、冷蔵、冷凍保存で長期間販売できるようにして「中津川のどぶろくが飲みたい」というファンの要望に込めている。どぶろくの醍醐味は、もろみの口あたりと豊かな発酵感。火入れ作業をおこなわず酵母が生きたまま封入された「生どぶろく」なかつがわは、口に含んだときに炭酸が弾けるような感覚があり酵母がつくりだす旨みをより楽しむことができる。こちらは瓶詰めすると膨張してしまうため「白川荘」店頭での限定販売となっている。

音発酵でさらに楽しい酒に

「どぶろくはもろみを絞らない、途中のお酒。一杯で完結するというより、宴席の途中で出てきてみんなで味わってもらう雰囲気があると思います。そこで美味しいね、と言ってもらえたらそれは嬉しいですよ」と、高橋さんは笑顔を見せた。仕込んだタンクに耳を寄せると発酵中に発生したガスが上がってくる音が聞こえる。「どぶろくは生き物と同じ。人が聴いて心地よい音楽を聴かせたら、菌は良い酒をつくってくれるんじゃないかな」と、音による発酵の変化に期待を寄せた。

郷土に長く伝わる
昔ながらの酒
どぶろくに
魂を宿す

区」に認定され町内3つの温泉施設で造られていた。しかし、担い手不足と不況から1軒を残すのみとなってしまった。

温泉施設「白川荘」の高橋亮さんは職員として働きながら、冬場はどぶろく杜氏として山の上にある作業場でどぶろく造りに精を出している。使用するのは、地元中津川産の酒米「出羽燦々」。70%まで磨いた米をていねいに洗米、吸水したあと米を蒸しあげ、そこから一気に蒸米の温度を下げ

DJ KENTARO

ターンテーブルリストであり、サウンドクリエイターである日本のDJ。世界最大のDJバトル「DMC World Final 2002」において大会史上最高得点というギネスを残し、今日までいまだやぶられておらず、文字通り圧勝でアジアから初の世界チャンピオンになる。その後、国内のビック・イベントや海外のフェスティバルなどに積極的に出演。40日間に渡るソロEUツアーなどを収めたDVD作品「National Geoscratch」を2005年1月にリリース、同DVDに収録された「Loop Daigakuin」は、Youtubeの視聴回数300万ビューワーを越える。またNHKの番組「トップランナー」やSpace Shower TV IDなど数々のメディアにも積極的に登場し、2004年12月にはUK屈指の老舗レーベル(Ninja Tune)の音源のみを使用したミックスCD「On The Wheels Of Solid Steel」が世界リリースされる。また様々な楽器奏者や歌い手ともセッションを重ね、国内外アーティストのリミックスや楽曲参加など、数多くの作品を世に出している。2006年4月に(Ninja Tune)とアーティスト契約を交わし、1stソロアルバム「Enter」を2007年に世界リリース。その独特にして強烈なリズムとジャンルを縦横無尽に駆け巡るサウンドデザインが評価され、オリコン・インディーズチャート1位、iTunesのダンスチャートではアルバム、シングル共に1位を獲得。2008年にはUKのレゲエ・レーベル(Pressure Sounds)よりレゲエオノリーの「TUFF CUTS」、2011年4月にはカリフォルニア州で行われた米最大級の音楽フェス、コーチェラ・フェスティバルに出演を果たす。2012年には2ndアルバム「Contrast」をリリースし、新たにBass Music Festival「BASSCAMP フェスティバル」を新木場ageHaにてスタートさせる。(*2015年からはフェスの舞台を海外はフィリピン、タイへと移動し成功をおさめる)。2012年夏にはフジロックのホワイトステージにも出演した。地球上をジャンルレスな音楽観と共に飛び回るターンテーブルマエストロ、DJ KENTAROは、今もなおターンテーブルリズムシーンの最前線を走り続けている。自身が講師を務めるDJスクール「World DJ Academy」を2015年に開校。クラブイベントSunny Goldenも渋谷Contactにて開催中。現在3rd album 絶賛制作中。自身のレーベル、「Endeavor Family Recordings」からも数々のチューンを世界発信し、傘下レーベルにはタイ・バンコクにベースを置く「GOJA Records」がある。Youtubeチャンネル、「世界のオカモト」や、ウィークリー生ライブ配信Twitchチャンネル「日曜岡本劇場」も要チェックだ。

youtube.com/djkentartube twitch.tv/dj_kentaro
instagram.com/djkentaro_official twitter.com/djkentaro



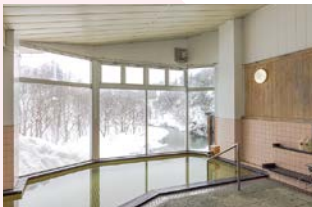
2020年3月、飯豊町に滞在し、大自然も満喫したDJ KENTARO

酵母も踊る 祭りのダンスミュージック

今回のコラボレーションでは、仕込みから発酵期間のうち20日間ほど、どぶろくに音楽を聴かせるという新たな試みをしている。サウンドクリエイターは、ターンテーブルリストのDJ KENTARO。どぶろくに聴かせるために書き下ろした曲「マツリ by DJ KENTARO & DJ Ride」は、目には見えない発酵世界を映像化したかのような、壮大で奥行きのある世界観とスリリングな展開をみせるダンスミュージックだ。テーマとなっているのは和の祭り。この地域には、獅子舞の文化が伝わり、そのお囃子から、笛、太鼓、掛け声をサンプリングし、新たなビートを創り上げた。

「発酵中に音楽を聞かせるという、いわば楽曲入りのお酒造りという発想にまず

驚きました。どぶろくに魂を宿らせるというコンセプトにすぐ惹かれ、関わることで嬉しく思っています」と語る KENTAROさん。制作には3ヶ月以上をかけ、ポルトガル在住のDJ Rideと共作を進めた。笛や太鼓は実際に演奏している音を録音。獅子舞を見て感じた激しさ、力強さを表現し、獅子が戦うようなイメージも曲に込めたという。「どぶろくという個人的なお酒と、和の祭りの音が合体するという新しい挑戦ができました。音楽にお酒は欠かせないもの。できれば身近な人と楽曲を聴きながらお酒を飲んで、楽しんでほしいですね」。今後日本の祭りの音楽を使い、日本ならではのダンスミュージックを世界に響かせたい、と意欲を語った。



白川温泉 いいで白川荘

飯豊山と白川湖畔の美しい風景に囲まれ温泉を堪能できるお宿。1泊2食付きの「どぶろく新酒プラン」も人気。

〒999-0424 山形県西置賜郡飯豊町数馬218-1
TEL:0238-77-2124
営業時間 / 9:00-18:00
定休日 / 不定休 <https://shirakawasou.com/>

INFORMATION

私たち山形県 長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町が参画する、地域連携DMO(一社)やまがたアルカディア観光局では、東洋のアルカディアと呼ばれる当地域のお土産開発プロジェクトの一環として、日本独自の文化である日本酒を通して世界に当地域を発信すべく、当地域の酒蔵と世界的に著名なグラフィックアーティストがタッグを組み、地域の神社に酒造りの成功をご祈禱していただいた上で、オリジナルの日本酒を開発。観光局のお土産として販売する「OMIKI プロジェクト」を進め、世界に「SAKE」のハイブランドとして「OMIKI」を販売・展開・プロモーションしていくプロジェクトを進めています。



南陽市
東の麓酒造
×
Gravityfree
純米大吟醸 特別栽培米 つや姫 精米歩合:40% 酵母:山形酵母 / 一升瓶(桐箱入り) / 木箱:東の麓特製桐箱
●500mlも販売中



白鷹町
加茂川
×
Ten Hundred
純米吟醸 出羽の里 精米歩合:55% 酵母:山形酵母 / 一升瓶(桐箱入り) / 木箱:特製桐箱



飯豊町
若乃井酒造
×
DRAGON76
純米大吟醸 出羽燦々 精米歩合:50% / 一升瓶(桐箱入り) / 木箱:特製桐箱



長井市
鈴木酒造店長井蔵
×
長場 雄
純米大吟醸 酒米:雄町 精米歩合:45% / 四合瓶(特製紙箱入り) / 箱:特製紙箱



南陽市
酒井ワイナリー
×
清水裕子
赤ワイン / 品種:マスカットベリーA、ブラッククイーン / 容量:750ml / 箱:なし

詳しくはやまがたアルカディア観光局ECサイトをご覧ください。
<https://tour.arcadia-kanko.jp/>



Kensuke Takahashi Profile



ecute EDITION yokohama ART WALL



町田 library&hostel 武相庵



Mural Art Project@Ningyocho



Kensuke Takahashi

横浜出身在住のペインター / 壁画家
確かな描写力・緻密なテクニック・現実を飛び越える自由な発想力で、あえて画風を決めずに描くスタイルで大型壁画を中心に飲食店舗内壁画、企業や行政へのアートワーク提供やライブペインティングイベント出演等活動の幅を多岐に広げている。近年では、大型の壁画として川崎市役所本庁舎・JR横浜駅エキナカ・横浜吉田町・横須賀・町田・八王子・Pow!Wow!Japan 神戸・マカオ等にて制作。そして、神奈川県啓発事業・横浜開港祭2019/2021へアートワーク提供等幅広く活動中

[instagram.com/kensuketakahashi1977.art/](https://www.instagram.com/kensuketakahashi1977.art/)

MISSION

東洋のアルカディアを子どもたちへ

私たちは、この地に住む人、働く人、訪れる人とともに、精神的にも経済的にも幸福度の高い地域をつくりあげ、次世代につないでいく。

VISION

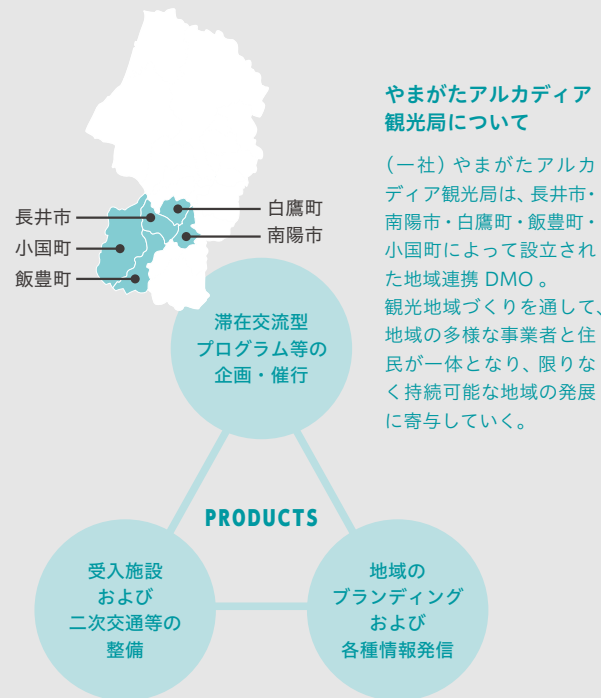
日本最強のローカル

豊かな風土、持続可能なコミュニティ、
いつでも帰れる、みんなを迎えられる心のふるさとやまがた

緑や花に囲まれた、美しい里山風景。人々が行き交い、まちは住まう人の笑顔に包まれ、活気に満ち溢れている。
住む人、働く人、訪れる人は、「東洋のアルカディア」と呼ばれるこの地に想いを馳せる。
この地に暮らすことを誇り、100年、はるか先まで続く「日本最強のローカル」を目指す。

BRAND CONCEPT

やまがたアルカディア～新たな自分に出逢える郷山～



PROFILE

宮部 一通(みやべ・かずゆき) 映像ディレクター。2011年に「株式会社 HIROBA」を設立。CM、ミュージックビデオ、ファッション関係など、企画から脚本、演出、撮影まで行う。アルカディア地域で今後撮りたいものは、ヤノハエロとマタギ。制作を手がけた歌舞伎・市川海老蔵「古典への誘い」の舞台製作の裏側を映し出したドキュメンタリー作品『幕内劇場』が「映文連アワード2021」グランプリや「カンヌコーポレートメディア&TVアワード2021」シルバードルフィン賞などを受賞。

「供養」と書いた紙を貼ったりする。誰かが感動するから感動するのではなく、自分が感動するものを撮り、それらを一つひとつ拾い集めていく制作過程はとても貴重で、自分自身影響されることが多いです。

僕たちは「誰かの大切な映像になるように」つくることを大切にしています。この地域に本気で向き合っている人たちに突き動かされるようにしてつくった映像が、「今まで気づかなかったけど自分はいいいところに住んでいるんだな」「素敵だな」と、地域の人々が誇りに思えるようなものになればいいなと願っています。

INFORMATION

見る・触れる・体験する！

やまがたアルカディア観光局では、置賜地方の豊かな風土と奥深い文化が感じられる、滞在交流型旅行商品を企画・提案しています。「東洋のアルカディア」を体験できる様々なプランをぜひご利用ください。



詳しくは
ツアーHPを
ご覧ください。



一般社団法人やまがたアルカディア観光局
〒993-0003 山形県長井市東町2番50号
TEL.0238-88-1831 FAX.0238-88-1812
<https://arcadia-kanko.jp/>



公式HP



facebook



Instagram



映像で見つける
アルカディア

株式会社HIROBA 映像ディレクター

宮部一通氏

地域を思い、本気で向き合う人たちに
大切な映像を届ける

CMやミュージックビデオ、映画やドキュメンタリーなどさまざまな作品を手がける映像ディレクター、宮部一通さん。8年前に制作した『水の都長井く受け継がれる水の歴史』をきっかけに、イザベラバードが見た「東洋のアルカディア」をこの地に息づく精神性に見出し映像化しています。アルカディア地域の人や風景を心に響く映像作品で表現したムービーは、やまがたアルカディア観光局(以下、アルカディア観光局)のウェブサイトから見るができます。

— アルカディア観光局の映像制作はどのように進められたのですか？

最初は、何を軸に撮っていくのか「アルカディアってなんだろう？」というところからプロジェクトに参加させていただきました。日本をずっと旅していたイザベラ・バードは、山形と同じように自然豊かできれいな風景を見ていたはずなのに、なぜ置賜地域だけ「東洋のアルカディア」と評したのか。開拓の歴史があるイギリスで育った彼女が、草木の中に魂を感じ自然を敬いながら暮らしている人

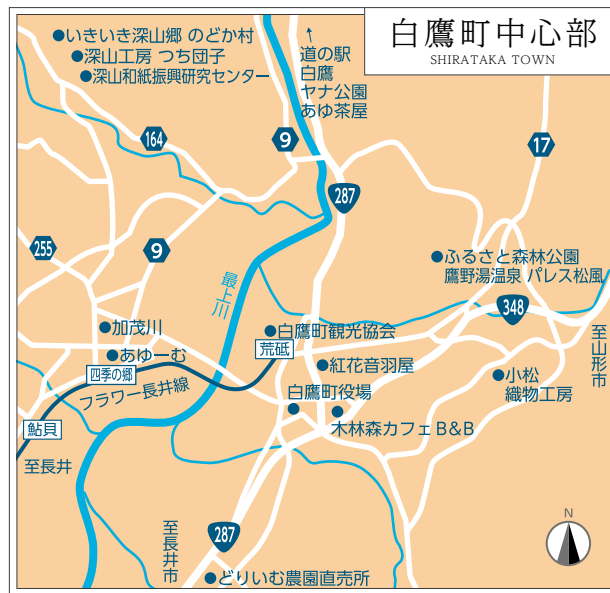
たちを見たときに、この地が桃源郷のように見えたのではないだろうか、という仮説を立て制作はスタートしました。

今の時代にも、アルカディア地域には自然と向き合い仕事をしている人たちが多くいて、そういう方々の姿を映像で切り取って、こういう方針が定まりました。僕らの中にもこの地域の人々の考えや意識を入れていくことが必要だったので、そこから4カ月ほどの期間があり、2019年の8月頃から本格的な撮影が始まっています。

— 実際に撮影をして感じたことは？

置賜地方の方々と接していると、声にならない声を聞き、目に見えないものを大事にしている人が多いと感じています。SNSのフォロー数など目に見えるものが重要な役割になることが多い時代の中で、それとは全く違う「山に神様がいる」「草木に魂がある」というものを大事にしている、木を切るときにお寺の住職さんを呼んで手を合わせてもらったりしていますよね。そしてそういう場所で育った小さな子が、切り倒す木に

市街地エリア MAP



arcadia 季刊誌アルカディア

#10 2022年1月発行(年4回発行)

発行／一般社団法人やまがたアルカディア観光局
編集／株式会社やまがたアルカディア編集社
写真／船山 裕紀
文章／上林 見子
デザイン／坂井理枝子



next #11
SPRING issue

特集1_歴史で見る郷土の食物
特集2_はちみつプロジェクト



1 表紙：飯豊町宇津沢
飯豊町体験農園サポート
センター付近にて
撮影 date：2021年3月
11日 午前5時40分頃



2 P02-03：白鷹町広野
陸橋にて
撮影 date：2019年4月
23日 午前5時40分頃



3 P04：白鷹町大字中山
白鷹山レーダ雨雪量計
撮影 date：2020年9月
30日 午後3時30分頃



4 P05：長井市十日町
文教の杜ながいにて
撮影 date：2021年9月
16日 午前10時20頃



5 P15：飯豊町数馬
白川ダム湖岸公園
撮影 date：2020年3月
8日 午前10時40分頃



6 P10-11：南陽市赤湯
高ツムジ山にて
撮影 date：2021年11月
7日 午前4時50分頃



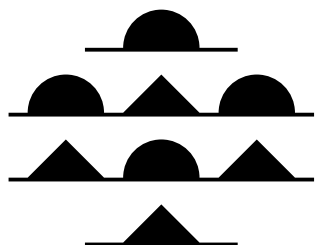
7 P16：飯豊町手ノ子
宇津峠にて
撮影 date：2019年8月
19日 午前7時44分頃



8 裏表紙：小国町玉川
新田橋にて
撮影 date：2022年3月
3日 午前7時40分頃



本誌に掲載されている
写真の場所に行ってみませんか？
そしてすこしの間だけスマホをしまって
イザベラ・バードが感じた
美しい風景を眺めてみてください。



やまがた
アルカディア
観光局

YAMAGATA
ARCADIA
Tourism Bureau

